

神戈陵を渡る風3

令和5年度 川辺高校 校長通信 第145号(通算)最終号

令和6年3月25日(月)発行

3年間発行続けてきました校長通信もついに最終号となりました。校長の思いと、学校の様子などをお知らせできればと毎週金曜日に発信してきた校長通信『神戈陵を渡る風』でしたが、ここまで頑張れたのは皆様のおかげです。これまでご支援とご協力を頂き感謝しております。皆様と川辺高校に、幸多かれと祈念し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

キバレ 辺高生!!



終業式 式辞

令和6年3月25日(月)

令和5年度も本日で終了します。最後の式辞として、西郷さんの教えについて述べます。

① チャンスとまぐれとは違う

よく世の中の人、チャンスがきたと言っているが、それはまぐれのことが多い。本当のチャンスというのは、理を尽くし、正しい道を行い、勢いをつまびらかにして動くということなのだ。いつも、心の底に世の中を憂える誠の心がなくて、ただ時のはずみに乗じて仕事がかうまくいったからといって、それはけっしてチャンスがきたのではない。単なるまぐれにすぎない。このへんを勘違いしている人が多い。



西郷さんの言われた耳の痛い言葉です。私自身も、よくこのチャンスとまぐれとを取り違えてしまいがちです。西郷さんの言うチャンスとは、はるかに苦渋に満ちたものであり、本人の汗と脂の努力によってもたらされるものなのです。しかも、きちんと理論が組み立てられており、青写真もあるところが素晴らしい。そして、その青写真に従って、労力を惜しまずに着々と実行するからこそ、チャンスが訪れると言っておられるのです。皆さんも計画を立てて行動し、粘り強く継続することで、「人事を尽くして天命を待つ」の天命(チャンス)が訪れるのです。何より、すぐに挫折したり、諦めないことが重要です。

しかも、きちんと理論が組み立てられており、青写真もあるところが素晴らしい。そして、その青写真に従って、労力を惜しまずに着々と実行するからこそ、チャンスが訪れると言っておられるのです。皆さんも計画を立てて行動し、粘り強く継続することで、「人事を尽くして天命を待つ」の天命(チャンス)が訪れるのです。何より、すぐに挫折したり、諦めないことが重要です。

② 反省は、前進への肥料だ

たとえ、過ちを犯しても、ああ、自分が間違っていたなと思えばもうそれでいい。そして、その過ちにはこだわりを棄てて、まっすぐ前に一步踏み出すべきだ。いつまでも、過ちをくよくよと思い煩い、また人に知られて自分の体面を失い、あるいは周囲の評価が下がったなどと考え、本当は、こうだったなどと言いつつをい訳をするのがいちばん見苦しい。たとえば、茶碗を落として割ったときのことを考えよう。つなげても、もとは戻らない。割ったという行為を詫言れば、そのことはもう忘れるべきだ。かけらを集めて、あーあ、あのときもっと気をつければよかったなあ、と思ってもとへ戻そうと思っても、それは無理だ。反省も、ほどほどにしないと厭味になり、いたずらに自分を苦しめるだけになる。



1月の全校朝礼で、「正しく反省することとは」について話したことがありました。西郷さんも自分の行動を反省し、次への原動力としていたと言うことになりました。皆さんもその精神を学んで下さい。

神戈陵を渡る風 3年間のあゆみ

【令和3年度神戈陵を渡る風】001~048



令和3年度 川辺高校 校長通信 創刊号(第001号) 令和3年4月9日発行
 新年度のスタートを記念して校長通信を「神戈陵を渡る風」として創刊しました。校内での講話内容の紹介や学校生活などを写真とともに簡単なインタビューを交えて紹介したいと思います。楽しく読んでもらえる幸いです。

4月6日 令和3年度1学期始業式 校長式辞より抜粋 4月7日 令和3年度第76回入学式 校長式辞より抜粋

『なりたい自分になるために』
 自分らしくあること
 自分以上に見せる必要はありません
 まわりの人に振り回されず
 ありのままの自分を受け入れましょう
 そして、何か一つでもいい
 「これだけは負けない」というものを見つけてほしい
 すべての情熱を傾け
 求め続けること
 ただし、苦勞して積み取ったものでも
 それに固執しないこと
 自分から壁を作ってはなりません
 苦しいとき 不安なとき
 自分を見つめて思い出せばいいのです
 考えて 考えて 考え尽くす
 そこから本当の自分の力が
 発揮できるもの
 決して最後まで諦めないこと
 いつかチャンスはやってくるもの
 心の底から願えば 夢は叶う はずです。

『至誠(しせい)を貫きなさい』
 充実した高校生活を創造するために、まず本校の目指す人間像を記した校訓「自律・誠正・積極・公徳」を理解することが大切です。
 自律とは、自分を正しく律するには不断の努力と忍耐が絶えず求められます。また、他人の痛みを自らの痛みと感じることができ、他人のために尽くす精神を育ててほしいということです。
 誠正とは、潔とした行まいに努めるということ。いたずらに振るのではなく、身体と心を鍛錬し、真に美しいもの、真実なるものを求めてほしいという願いがあります。
 積極とは、何事も拙速に行動せよということ。待たずに動くのではなく、判断ができるように、常日頃の鍛錬が重要だということであり、これら三つの力を身につけることで、最後の公徳に繋がります。
 公徳とは、道義心を養い、互いに支え合う優しさを身につけ、正しい判断を行う力を備えることです。
 これらの校訓を胸に前みながら、三年間の高校生活の中で、教科の学習はもとより、生徒会や部活動、学校行事やボランティア活動などに積極的に参加し、心豊かに他人を思いやり、他人と協調して社会に貢献できる人間に育つことを期待します。

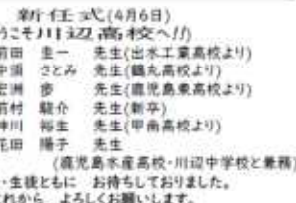


ここに集った仲間たちと知恵を出し合い、今しか出来ない経験を積み重ねて下さい。多くの出会いが必然であり、奇跡です。今からできること、今しかできないことに積極的にチャレンジしましょう。皆さんの前途は、輝いています。

【令和4年度神戈陵を渡る風2】049~096

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第049号(通算) 令和4年4月8日(金)発行
 新年度のスタートを記念して校長通信を「神戈陵を渡る風2」として昨年度に引き続き発行します。校内での講話内容の紹介や学校生活などを写真とともに簡単なインタビューを交えて紹介したいと思います。今年度も楽しく読んでもらえる幸いです。



令和4年度 1学期始業式 校長式辞より抜粋 4月6日(水)

『行動を起こすための6つのヒント』
 ① 小さな行動をたくさん実行する
 一歩を踏み出すために、なるべく簡単な行動を繰り返していきましょう。例えば、ランニングを目標に定めたなら、寒くない時間に数分散歩に行くことから始めてみるのもいいでしょう。外に出ること自体に抵抗感がなくなれば、走ることもより簡単になります。
 ② 5秒カウントダウンして動く
 動くときに「5、4、3、2、1」と唱えて動く方法。5秒以内であれば、恐れや不安から身についていた悪い習慣から行動パターンに従わずに動き出せます。動く前に「やっばり意味がないかも」とか、「今日は頑張らなくても」といった意識に陥られることなく動き出せるため、考え過ぎて何もできないといった状態から脱することが出来ます。

③ 習慣とセットにする
 日々決まっていたことに加えて、行動が起す可能性が高まります。日記を書くことを習慣にしたいなら、歯磨きや夕食、入浴の後に実施するようにすれば、行動しやすくなります。さらに風呂の時に日記を書いてペンなどを用意しておけば、行動しやすくなります。
 ④ 完璧を目指さない
 完璧主義の人は、ついつい行動が後回しになってしまうもの。まだ手をつけられないと準備にばかり時間を費やすこともあるかもしれませんが、そうした意識を変えましょう。たまには、いい加減に行動する練習しましょう。完璧でなくても大勢に影響がいくと分かると、行動もしやすくなるそうです。
 ⑤ 最悪の状況を考える
 どうしても動けないときは、それによってどんなリスクが増えていくのか書き出しましょう。先生に怒られたり、成績が低くなったり、周りの人から愛想をつかされたら、さまざまな状況から脱することが出来ます。

③ 宣言をする
 新年度に目標を立てているのに達成できないと感じている人には、イマイチのように思うでしょう。しかしあるデータによれば、自分に誓いを立てた人の46%が「達成された」と心理実験で答えたようです。誓いを立てなかった人の達成率が4%だったことを考えると、それなりの効果があると言えます。

行動を起こし、充実した高校生活を送ろう!!

【令和5年度神戈陵を渡る風3】097~145



令和5年度 川辺高校 校長通信 第097号(通算) 令和5年4月7日(金)発行
 令和5年度は、本日35名の新入生を迎え、全校生徒数132名で始まりました。今年度も、校長通信「神戈陵を渡る風」をシリーズ3として、通算第097号から原則金曜日に発行します。



令和5年度 1学期始業式 校長式辞より抜粋 4月6日(木) 第78回入学式 校長式辞より抜粋 4月7日(金)

『至誠(しせい)を貫きなさい』
 充実した高校生活を創造するために、まず本校の目指す人間像を記した校訓「自律・誠正・積極・公徳」を理解することが大切です。
 自律とは、自分を正しく律するには不断の努力と忍耐が絶えず求められます。また、他人の痛みを自らの痛みと感じることができ、他人のために尽くす精神を育ててほしいということです。
 誠正とは、潔とした行まいに努めるということ。いたずらに振るのではなく、身体と心を鍛錬し、真に美しいもの、真実なるものを求めてほしいという願いがあります。
 積極とは、何事も拙速に行動せよということ。待たずに動くのではなく、判断ができるように、常日頃の鍛錬が重要だということであり、これら三つの力を身につけることで、最後の公徳に繋がります。
 公徳とは、道義心を養い、互いに支え合う優しさを身につけ、正しい判断を行う力を備えることです。
 これらの校訓を胸に前みながら、三年間の高校生活の中で、教科の学習はもとより、生徒会や部活動、学校行事やボランティア活動などに積極的に参加し、心豊かに他人を思いやり、他人と協調して社会に貢献できる人間に育つことを期待します。

『至誠無息』
 最高の誠実さが示せるように、怠り休むことなく、自分を磨きなさい、といった意味です。
 「至誠」とは、この上ない誠実さ、真心をさし、「息」は休んでいる状態を指します。
 今日、誠実であったからよい、ということでは無く、終わりは無く、日々、その瞬間瞬間を大切に誠実であることを貫き、実践しなさいといった教えだと思えます。

私の令和時代は、川辺高校で過ごしました。教頭として赴任した平成31年の5月から令和となり、当初は、学校の広報活動をどの様に行うのか試行錯誤を繰り返していました。学校ブログや同窓会のFacebookの活用も行ってきましたが、校長になったことを契機に「校長通信」を発行しようと決心しました。最初は月1回程度の発行を想定していましたが、ある教員に「校長、これ毎週出すんですよね」と言われ、「そうですよ」と気軽に応えたことから、毎週金曜日に発行するという現在のスタイルを確立してしまいました。1年目は001~048号と48回、2年目が049~096号と48回の発行となり、シリーズ3は097~145号と49回に臨時号として創立記念日に発行した「辺高歴史探訪」を加えて50回の発行を継続出来ました。校長として学校の様子や校長の思いを生徒と保護者をはじめ同窓会や地域の皆様にお伝え出来たのであれば幸いです。これまでお読み頂きありがとうございました。